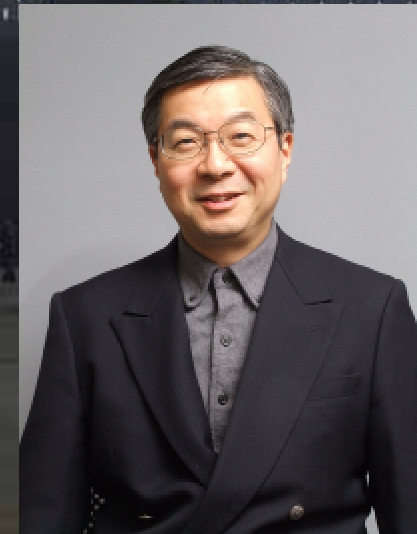


AtLarge 活動報告

2008年3月28日
ICANN報告会

多摩大学情報社会学研究所
ハイパーネットワーク社会研究所

会津 泉



ICANNデリー会議で APRALO、ICANNとMoU署名



地域組織RALO 全5地域で成立



ICANNコミュニティでの AtLargeへの認知向上

- 組織体制が「正統」なものに
- ポリシー活動への関与が強まる
- AtLarge Review 開始される
 - 外部コンサルタントによる評価
 - gNSO Review とも関連
- “AtLarge Summit”
 - 全世界のALSによる「サミット」提案
 - 理事会、2008開催に前向き



ICANN AtLarge

- 個人利用者の意見をICANNに反映
- ICANNの重要な一部へ、、、
- 組織強化への取組み
 - “OneDay”ワークショップ
 - Wikiの活用
 - コミュニケーションの改善
 - スタッフ増強
- ALAC - RALO - ALSの関係強化

“OneDay”ワークショップ

- ロサンゼルスに続き2回目開催
- AtLarge内部の組織強化、交流
 - ALAC、ALS、RALOの関係強化
- 地域別RALOレポート
- ポリシー課題別に小グループ討論
 - ドメインテイスティング
 - Whois、RAA、IDN
 - IPv4v6
 - “AtLargeサミット”





ポリシー分野の取り組み

- ドメイン名テストティング
 - PDP開始、WGによる検討へ
- IDN ccTLD FastTrack実装を支援
- Whois (前進なし)
- IPv4v6 「共存」の重要性喚起、パリでのワークショップ開催へWG
- RAA再交渉プロセス



AtLargeの課題

- アジア太平洋：
 - まだまだALSが少ない、活動も弱い
 - 日本も含めて
- グローバルに
 - RALO組織の維持 資金、事務局、
 - ALS、RALO、ALACの関係が複雑過ぎる
- ALACとスタッフの認識のズレ 構造的な問題
- 予算負担増加をどうする？（ほとんどが旅費）
- 今後
 - gNSOの決定に参加？ 理事会に参加？
 - AtLarge Review 6月に報告書

ICANN一般会員助言委員会(ALAC)

IPv4枯渇とv6移行に関するコメント

2007年10月31日

- われわれは、むこう数年以内にIPv4のアドレス在庫がなくなることが予想され、インターネットの一般人による利用に重大な影響をもたらす可能性があることを認識している。
- われわれは、グローバルなアドレス配分レジストリーに対して、**IPv4の残りのアドレス在庫の配分が、必ず公正で平等な形で行われるように要請する。問題は、何を以て「公正で平等」とするかであり、そのためにはオープンでだれもが参加できるポリシー制定プロセスが必要であると理解している。われわれはこれまでRIRが行ってきた取り組みを尊重し、これからの活動により積極的に参加していきたいと考えている。**
- われわれはIPv4アドレスの「ブラックマーケット」が**できあがることを懸念し、セカンダリーマーケットの実現に向けての合理的な方法を求めるものである。われわれはまた、未使用のIPv4アドレスブロックの回収について合理的な方法を求めるものである。**
- われわれはまた、問題が明確に理解され、解決方法がオープンに伝えられるように、**アドレスコミュニティの主導による啓発活動の推進を求めるものである。**
- われわれは、この問題への最善の解決方法は、円滑で秩序を保ったIPv6が大量に利用できるよう、円滑で秩序を保った移行することだと理解する。その実現には次のいくつかの問題点、課題がある。
 - タイムリーな移行のための意識啓発キャンペーンを組織すること
 - メディアの過剰な報道を避けるために、広範な人々に**正確な情報を提供すること**
 - 政府や商用サービス提供者によるすべての「パブリックなサイト」が**IPv4-v6デュアル機能の実装を確実に間に合わせる**こと
 - 途上国がタイムリーで費用的にも無理なく移行できる準備を行うことに支援手段を講じること
 - 広報、技術支援その他の準備活動がタイムリーに行なえ、適切で**確実かつ効果的なプランニング**ができるように、移行計画の実施のためのタイムラインを準備すること



IPv4とIPv6のネットワークとサービスの共存に関するALACの声明

- ALAC のポジションは、11月ロサンゼルス会議から基本的には変わりはないが、それ以降より多くの情報が明らかになってきた。
- IPv4とv6という二つの異なるIPネットワークとその上のサービスが間違いなく共存し、互換性が保たれるようにする必要があると考える。
- 日本政府の研究会が最近発表した資料を含む技術専門家による最新情報によれば、**主要な解決策はそれぞれが技術、運用、経済、政策的に大きな課題をもつものであることがわかってきた。**
- ALACは、インターネットの運用とIPコネクティビティ上の多くのサービスの提供は、ICANNの直接の責務ではないことは理解している。しかし、利用者の混乱や不安定を最小限にするためには、**ICANNが他の組織と協働して、眼前の課題に、適切な形で取り組むことを求める。**そうした努力の欠如は、解決ではなく混乱を招くだろうと考えるものである。
- こうした考えに沿って、ALACはこれからのICANN会議やその他の可能な機会において、一連のワークショップを開催することを計画している。すべての関係するステークホルダーが、このキャンペーンに参加することを希望するものである。



参考情報 < ITと地球温暖化 >

- IGF リオデジャネイロ
- 秋草富士通会長、環境問題に関心をもつことを呼びかけ
- 洞爺湖サミットに向け、「ITと温暖化」をテーマとした会議が続く
 - 4月15 - 16日 「ICTと気候変動」国際シンポジウム(京都)、主催:ITU + 日本政府
 - 4月 経団連 + GIIC(東京)
 - 6月 OECDフォーラム(ソウル)
- MSH方式の取組みが必要に



ご清聴
ありがとうございました

会津 泉
iza@anr.org

多摩大学情報社会学研究所
ハイパーネットワーク社会研究所